

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
倫理学入門 An Introduction to Ethics		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉主事任用資格 を取得するための科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
法学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会学				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江弘晃	講師室	木曜日お昼時間		授業中に指示します
授業の概要				
現代社会の倫理問題を、倫理学領域の基本から考え直し、社会の秩序維持の為に他者と共存して生きていく上での、善悪についての知恵や価値基準に関する考え方や見方を、受講者自らが身につけることを目的とする。①倫理学の諸学説②現代日本社会の出發時の倫理課題③現代の倫理学説④政治の倫理⑤環境の倫理⑥生命の倫理⑦情報の倫理⑧企業の倫理等の概略を学習する。				
授業の目標				
①現代社会の歴史を学ぶことで、現代倫理の背景を描写することができるようにする。②倫理問題の解決方法についての多様な考え方や見方を説明することができるようにする③現代社会を支えている領域に発生する倫理問題を認識することができるようにする。④個別な社会領域に潜む倫理問題の特徴を認識することができるようにする。⑤各領域の倫理問題に含まれる共通の倫理の原理を説明することができるようにする。⑥普遍的な倫理の原理を考え、社会で生きていく上の基本的なモラル感を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
基本的事項について板書し、各事項の関連を説明し、教科書の内容を深め、その日の学習の要点をまとめて毎回提出することを義務付け、疑問のある倫理事項について学生と話し合うようにする。				
学習の成果(学習成果)				
あなたはこの授業を受けることで①日常生活における人間関係を、自己中心ではなく他者への思いやりを中心に組みなおすことができる。②今までのヒト、モノ、カネに対する価値観を、社会的に正しく、善い方向に導くことができる。③共同生活における人間関係の対立を解消する、人類の今までの苦勞の知恵の歴史を認識することができる。④社会改善のヒントを得ることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス(学習の方法、シラバスの説明、成績評価の説明、モラルの欠如した現代社会の風潮の話)			
第2回目	倫理学の基本問題1(倫理学の歴史概略、倫理学の対象領域、関連する諸科学、補助科学としての倫理学)			
第3回目	倫理学の基本問題2(倫理学の様々な学説、倫理学説の構造、倫理と道徳法則との関係)			
第4回目	現代日本社会の出發(戦後社会と民主主義、戦後に流入した外国の倫理思想)			
第5回目	生命の倫理1(バイオエシックスの諸問題、医の倫理の諸問題)			
第6回目	生命の倫理2(生命救助におけるダブルエフェクトの原則、医療倫理における生命の扱い)			

第7回目	環境の倫理1(エコエチカの考え方、生態系と経済との葛藤、文化環境におけるモラル)		
第8回目	環境の倫理2(自然保護の原則にみられるモラル、地球道徳の発想、世代間倫理の問題)		
第9回目	政治の倫理1(政治倫理綱領と行為規範、政治倫理の原則論)		
第10回目	政治の倫理2(官僚の倫理規範、有権者の選挙モラル、企業献金のモラル、民主主義のモラル)		
第11回目	情報の倫理1(ネットの規範的特色、情報倫理の十戒の意味)		
第12回目	情報の倫理2(サイバー社会の反倫理的行為、ICT犯罪とその防止策にみられる倫理)		
第13回目	企業の倫理1(企業の社会的責任、社員のモラル)		
第14回目	現代の倫理学思想(実用主義、実存主義、メタ倫理学、正義論)	試験	
第15回目	授業内容の総まとめ		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度	10%	積極的な授業の疑問点の話し合いへの態度、私語なくまじめにノートをとる、	
レポート	30%	毎回、課題を十分理解しまとめあげている点を評価。	
調査報告書			
小テスト			
試験	60%	客観○×問題と記述問題。	
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
『現代モラルの問題解決のすすめ』青山社 参考書:『倫理学事典』(佐野短期大学図書館所蔵)			
履修上の留意点・ルール			
私語厳禁、携帯電話、スマホの使用禁止、毎回の課題レポートは必ず提出する、理由なき遅刻は減点。			